

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果

むつ市教育委員会

□1 調査の目的

本調査は、文部科学省が学校の設置管理者等の協力を得て実施するものであり、次のことを目的としている。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

□2 調査の対象学年

小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒

□3 調査の内容

(1) 教科に関する調査 【小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語】

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下の通りとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題。

※昨年度までは、上記①をA問題、②をB問題として分けて調査していたが、今年度から①と②を一体的に構成して問うこととなった。

(2) 生活習慣や学習環境などに関する質問紙調査

- 児童・生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査
- 学校に対する調査
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

□4 調査の方式

悉皆調査（対象学年の全児童・生徒が参加）

□5 調査期日

平成31年 4月18日（木）

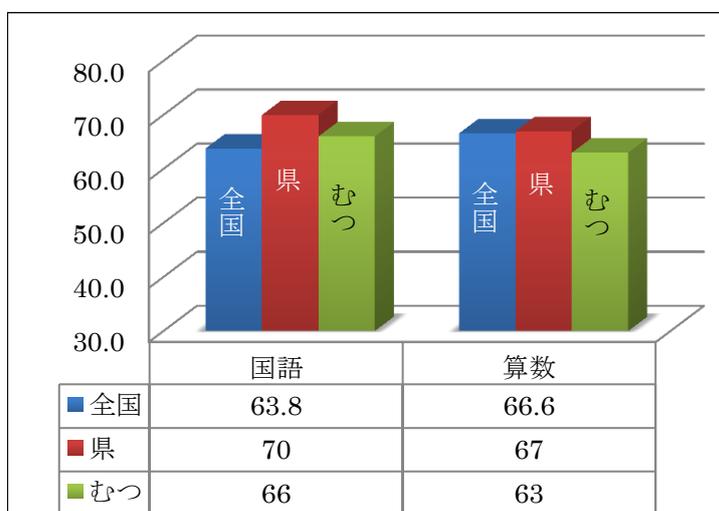
□6 調査を実施した児童・生徒数

	児童数	生徒数
全国（公立）	1,028,203人	938,887人
青森県（公立）	9,102人	9,755人
むつ市	407人	430人

□7 学力調査の結果

※報道等による順位競争の過熱化を防ぐため、平成29年度から、都道府県・市町村の数値は整数値での発表となっている。

■①小学校6年生



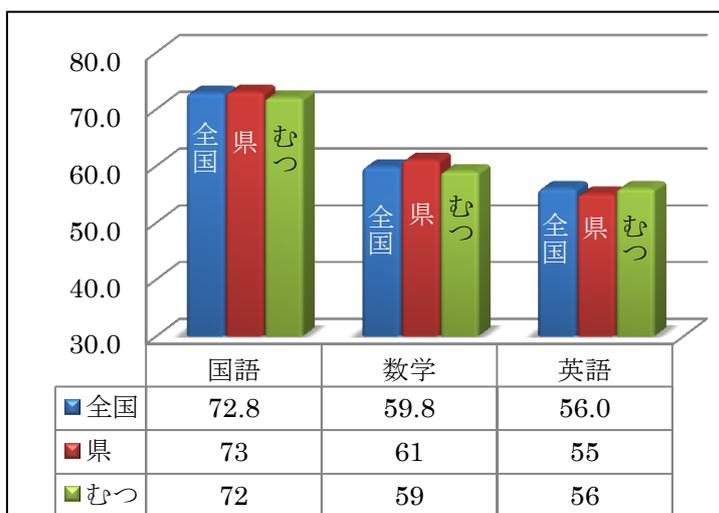
国語

全国平均を上回り、県平均を下回る。

算数

全国平均・県平均を下回る。

■②中学校3年生



国語、数学

全国平均・県平均を若干下回る。

英語

全国平均と同値で、県平均を上回る。

□ 8 質問紙調査の結果（本市の実態）

領 域	児童・生徒の傾向 ○…小・中共通 ㊦…小学校 ㊧…中学校
基本的生活習慣等	<p>○毎朝同じくらいの時刻に起き、朝食を食べるなど、規則正しいリズムで生活している。</p> <p>○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている。</p>
学習習慣等	<p>○読書が好きである。</p> <p>○新聞を読む児童・生徒の割合が全国・県平均よりも高い。</p>
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感※ ¹ 等	<p>○先生は自分のよいところを認めてくれていると思っている。</p> <p>○学校の規則を守り、いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている。</p> <p>○人の役に立つ人間になりたいと考えている。</p>
地域や社会に関わる活動の状況等	<p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童・生徒の割合が、全国・県平均よりも高い。</p> <p>㊦日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思っている。</p> <p>㊧地域の行事に参加している生徒の割合が、全国・県平均よりも高い。</p>
ICT を活用した学習状況	<p>○授業でもっとコンピュータなどの ICT を活用したいと思っている。</p>
主体的・対話的で深い学びの視点※ ² からの授業改善に関する取組状況	<p>○学級活動や道徳の時間では、話し合い活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると考えている児童・生徒は少ない。</p>
国語、算数・数学、英語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等 ※英語は中学校のみ回答	<p>○国語、算数・数学、英語の勉強が好きで、授業の内容がよく分かると感じている児童・生徒の割合は、全国・県平均とほぼ同値である。</p> <p>○授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。</p> <p>㊦国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していると考えている生徒は少ない。</p> <p>㊧将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う生徒の割合が、全国・県平均よりも高い。</p>

※¹「自己有用感」とは、自分が大切な存在であるということ認識すること。

※²「主体的・対話的で深い学び」とは、新学習指導要領で示されている授業改善の視点。

□9 学力と相関関係があった質問項目

学力と相関関係があった質問項目から、正答率が高かった児童・生徒には、次のような傾向が見られた。

■ 小学校6年生・中学校3年生 共通

- ・毎日、同じくらいの時刻に就寝や起床している。
- ・家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・学校のきまりを守っている。
- ・読書が好きである。
- ・友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- ・学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。
- ・学習したことをほかの学習や普段の生活の中で活用しようとしている。
- ・国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫している。

□10 今後、重点的に取り組んでいきたいこと

- 児童・生徒の学習意欲と自信を高めながら、「知識・技能」「活用する力」の両面を伸ばすこと。
- 各教科等の学習で、じっくり考え、根拠を持って判断したり、自分の考えを筋道立ててわかりやすく説明したりする力を高めること。
- 本や新聞を読むことを一層推進していくこと。

今後も地域や家庭と共に、小・中学校が連携して取り組む小中一貫教育を通して、児童・生徒のさらなる成長を目指し、教育活動の充実に努めて参ります。